



あびこ市民活動 ネットワーク 会報

令和 3(2021)年 4 月 15 日発行

第 57 号

発行責任者 宇野眞理子
我孫子市湖北台 4-11-16

新年度を迎えて

あびこ市民活動ネットワーク 代表 宇野 眞理子



2020 年は、誰もが戸惑いと不安を抱え、「新しい生活様式」を守りながら日々暮らしてきました。私たちもウイズコロナ時代の活動の在り方を学んだ 1 年だったと思います。

3 月 21 日に緊急事態宣言が解除されたもののまた少しずつ感染者が増え始めています。

2021 年の 6 月であびこ市民活動ネットワークは設立 15 年目を迎えます。15 年の節目の年に、今までの活動を捉えなおし、会則改正をはじめとして、持続可能な体制に転換するための検討を始めたいと考えています。昨年から我孫子市市民活動支援指針の見直しが行われ、この 4 月から施行。この指針の中に掲げられている推進施策 6 項目を着実に前に進めてゆくために、市民活動支援課・あびこ市民活動ステーション・我孫子市社会福祉協議会等と連携を密にしながら、総

合計画の実施計画に反映させていくことが、市民活動の連合組織としての使命だと痛感しています。

そのために、今年度は今までのやり方を変え、事業の柱を掲げ、会員の皆様の知恵とご協力をいただきながら共に事業を進めていきたいと願っています。いま、事業の柱を役員会でまとめている最中です。総会の時に提案したいと思っていますのでよろしくお願い致します。2021 年も制約された中での活動になると思いますが、着実に歩みを進めていきましょう！

総会のご案内

定時総会を下記のとおり開催致します。

開催日 2021 年 5 月 28 日 金曜日

時 間 午後 2 時~3 時を予定

場 所 けやきプラザ 7 階 介護研修室

市長挨拶



あびこ市民活動ネットワークの皆様には、日頃より市政運営にご協力を賜り、誠にありがとうございます。

また、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、Zoom 会議など新たな手法を活用しながら、市民公益活動にご尽力いただいておりますことに心から敬意を表します。

さて、「我孫子市市民公益活動支援指針」の改訂にあたっては、貴団体をはじめ、川村学園女子大学、中央学院大学、我孫子市社会福祉協議会、市民活動ステーション指定管理者など、市内で市民活動支援に関わる方々から様々なご意見・ご提案をいただきました。

我孫子市長 星野 順一郎

今年度からは、この新たな指針を踏まえて、市民公益活動の担い手対策や市民活動団体が活動しやすい環境づくりを検討し、貴団体をはじめ、関係機関と連携しながら進めていきます。

今年は、1 年延期となった東京 2020 オリンピック・パラリンピックが開催され、7 月 3 日にはオリンピック聖火リレーが我孫子市を通ります。市民の皆様の記憶に残るような聖火リレーにしたいという思いで準備を進めております。

これからも「我孫子に生まれて良かった」「我孫子に住んでいて良かった」と思えるまち、そして、我孫子市民であることを誇れるようなまちづくりを進めていきたいと考えておりますので、引き続き、ご協力くださいますようお願いいたします。

< も く じ >

- 1P あびこ市民活動ネットワーク代表挨拶／我孫子市長挨拶
- 2P 市民活動支援に関連ある人事異動／着任挨拶／退職挨拶
- 3P 分科会活動報告／市民活動支援分科会・子ども分科会
- 4P 審議会報告／東日本大震災から 10 年
- 5P 会員の活動あれこれ／プラスチックごみと消費者の一步

- 6P 休眠預金活動について／手賀沼まんだらの活動紹介
- 7P あびこ市民活動ネットワーク役員会報告
- 8P 市民活動ステーションからお知らせ



【市民活動に関連ある組織変更・人事異動の紹介】

■異動しました

市民活動支援課長・並内秀樹⇒収税課長
地域振興担当・高木康秀⇒秘書広報課

■4月1日より着任します

秘書広報課・小池博幸⇒市民活動支援課長
・山田孝介（主任）市民活動支援課
・榎本陸人（主事）地域振興担当

【関係各課の異動を一部掲載します】

4月に着任しました。（管理職のみ掲載）

こども部 部長 星範之

子ども相談課長兼子ども虐待防止対策室長 鈴木将人

保育課長 石山 達也

子ども支援課（主幹） 土屋弥世

健康福祉部長 三澤直洋

社会福祉課長 阿部政人

■引き続き業務を担当します

市民活動支援課

飯塚寛明（主査長）／長谷川直美（会計年度）

伊藤瑞恵（会計年度）

地域振興担当

倉島千誉子（課長補佐）／渡邊さやか（主査長）

中島弘貴（主任）／斎藤千遥（主任主事）

打田佳咲（会計年度）

障害福祉課

（主幹） 飯田秀雄

（主幹） 小笠原雅夫（あらき園長兼務）

高齢者支援課（主幹） 長島公子（高齢者なんでも相談室長兼務）

◆◆ 市民活動支援課 小池課長着任挨拶 ◆◆

市民活動支援課長 小池博幸



4月1日付で市民活動課長に着任いたしました。

異動前は、秘書広報課で広報と男女共同参画の推進を担当していました。前職場では、市民参加や市民と共に取り組むことを意識し事業を進めてきました。市民活動支援課においても、同様の意識を持って、地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。

市民活動の支援では、「我孫子市市民公益活動支援指針」を令和3年に改訂しました。今年度は、皆様とより良い事業になるよう話し合っていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。地域づくりには、市民活動団体を含めて、様々な団体のチカラが不可欠です。

引き続きご協力をお願いします。

退職のご挨拶

市民活動支援課 森山拓朗

市民活動支援課に平成26年に配属になり7年間、市民活動支援等に関わってまいりましたが、令和3年3月31日をもって我孫子市役所を退職することとなりました。

配属になった当初は市民活動やNPOという言葉は知っていたものの、一体どういうものなのかよくわからず、上司に相談したり、市民活動団体の皆様とお話をしながら自分なりに理解を深め、市の職員として何をすべきなのか考えてまいりました。

市民のチカラまつりや補助金交付事業などを通じて、皆様とお話をさせていただき、自分の中にはなかった発想や気付きを与えていただいたことや市民活動とは関係のない部分でも人生の先輩として色々なことを教えていただけたこと、優しく声をかけていただいたことなど、この場で感謝を伝えることはでき

ません。お会いできなくなると思うと寂しくなりますが、皆様のおかげで実りある時間を過ごさせていただきました。

4月から新天地で業務に励むこととなりますが、皆様に教えていただいたことや培った知識などを活かして頑張りたいと思います。

市としても昨年度指針の改訂を行いました。事業を進める中で皆様にご協力いただきたいことが多くありますので、我孫子市の市民活動のためにこれからも変わらぬご協力をお願いいたします。

最後になりますが、皆様の益々のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

今まで、本当にありがとうございました



分科会の活動状況

【市民活動支援分科会】

「高齢者の“手”助けサミット」を開催」

民間団体8団体・行政4部門が参加しました

市民活動支援分科会は、1月22日(金)に議会棟会議室で高齢者世帯の庭や家の手入れを応援する市民共助活動の現状・課題などを官民で語り合うことを目的に、「高齢者の“手”助けサミット」を開催しました。

冒頭に我孫子市青木章副市長のご挨拶をいただいた後、前半ではNPO法人わごころ「みんなの輪」、NPO法人アシラネ、NPO法人ACOPAメルシー&メルシー、任意団体お助けマン、久寺家生活お助け隊の各代表から、各団体の活動紹介や今後の課題などをお話しいただきました。ほかに高齢者手助けの草分け的存在で、平成29年にNPO法人を解散したNPO法人ディヘルプの元理事長・山根修氏からのメッセージも届けられました。



この中では、メンバーの高齢化や担い手不足で、利用者の要望に十分応えられない現状や、伐採した庭木が当日クリーンセンターに持ち込み出来ない不便などが説明されました。

後半は、我孫子市市民活動支援課と市民活動ステーションから市民公益活動支援指針の見直し、担い手養成講座などについて、高齢者支援課・社会福祉課・我孫子市社会福祉協議会からお話をいただき、高齢者の生活支援施策や支え合い会議がまとめた「高齢者のための日常生活困ったときガイド」などの説明をいただきました。(担当幹事 小田麻子)

官民意見交換のご提案を歓迎します

このサミットは、特定テーマで官民が意見交換する特別企画で、新型コロナ警戒期間中の開催でしたが、関係団体、関係機関の方々が快くご参加くださったことに感謝します。

今回は、双方が現状や課題・方針などを説明したところで時間切れになって意見交換などが出来ず、終了後のアンケート調査でも「まずまず」という評価でしたが、「官民合同のこの種の催しは？」には回答者10人全員から「必要と思う」という回答をいただきました。

また「このサミットを今後続けるのは？」にも回答者10人全員が「賛成」と回答していただき、「そのテーマは？」については、市側から「手助けのためのITシステム」「空家の“看取り”について」「終活の諸課

題」「孤立死と見守り」「身寄のない人にどう対応する」などが、市民団体側からも「手助けを支えるITシステム」「空家問題」「この種の活動へのまち協や市民活動のかかわり方について」「高齢化への対応について」など、数多くのご提案をいただきました。

支援分科会では、このアンケート回答などを参考に、このサミットの継続や、その他の分野での官民意見交換を検討しますが、会員各位から、このサミットとアンケート結果に基づく官民意見交換テーマのご提案を歓迎します。当面は高齢者の生活支援活動をメインテーマにしますが、ほかにご要望があれば、市側に打診します。携帯(090-2414-8961) 多田までお申し越してください。

(今回サミット企画担当 多田正志)

【子ども分科会】 ～生きづらさからの大脱出Ⅲ～支援者がつながるために～

YouTube にアップしました！

子ども応援団では、前号で報告した昨年11月28日に開催したイベントをYouTubeにアップしました。内容は遠藤美香我孫子市教育研究所所長の講演と、悠々ホルンさんのお話、高校講師で社会福祉士の伴火穂さんを交えた三者トークでした。視聴をご希望される方は事務局までご連絡ください。URLをお知らせします。なお、当日お答えできなかった質問への回答は市民活動ステーションのホームページをご覧ください。

(担当幹事 柳川眞佐子)

我孫子市総合計画審議会の報告

総合計画審議会委員 小田麻子

今年度はコロナ禍で途中会議が中断されましたが、8月以降、数回にわたって審議会が開催され、審議会でまとめた「我孫子市基本構想案」を2月に我孫子市議会基本構想審査特別委員会に提出し、審議されました。そこでさまざまな表現についての訂正案や疑問点などが出されましたので、3月6日の審議会で再度検討しました。その修正案について、議会での議決が得られ、「我孫子市基本構想」がようやく形になりました。

基本構想の期間は、令和4（2022）年度～令和15

（2033）年度までの12年間です。また基本構想には将来都市像から始まり、8つの基本目標が掲げられ、それに対しての基本施策が記載されました。

令和3年度は5月より会議がスタートし、この基本構想の下、今後は基本計画について審議され、我孫子のまちづくりを進めていくことになります。

3月の会議は会場参加とZoom参加の併用となりましたが、コロナ禍が収束しない中、無事に予定の会議が行われ、審議に支障ないように進行できればと思っています。

福祉有償運送と社会福祉協議会理事の推薦報告

- ・社会福祉協議会理事に特定非営利活動法人わごころ理事長吉田充氏を再度選出しました。（任期、令和3年6月から2年間）
- ・我孫子市福祉有償運送運営協議会委員に富野浩司氏を再任しました。（令和3年4月から2年間）

◆◆ 東日本大震災から10年 ◆◆

我孫子市布佐東部地区の今

東北では今も避難指示が解除されない地域があり、余震の怖さを抱えながらの日常があります。

死者 15899 人、行方不明者 2526 人、審査委関連死 3775 人を加えると合計 22200 人の方々が不本意な死を迎えました。東日本大震災の記憶は10年の歳月とともに少しずつ薄れ始めているように思います。我孫子市でも布佐東部地区約12.5ヘクタールの区域で地盤の液状化が起こり、思いもよらないくらい大きな被害が出ました。10年前を思い返し、今新たに災害への備え等を見直してみる機会となればと思います。

当時の写真を我孫子市のご協力を得て掲載させていただきま
す。なお、布佐東部地区復興対策室現地事務所は震災から5年後の平成28年3月31日に閉鎖となりました。



東日本大震災で液状化した布佐東部地区



液状化当時の布佐東部地区（都交差点）の様子

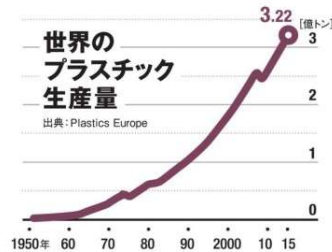


現在の布佐東部地区（都交差点）の様子

2月16日のNHKスペシャル「未来への分岐点～プラスチック汚染の脅威」をご覧になったでしょうか。石油由来のプラスチック問題について最新の貴重なデータを含む凝縮された内容でした。5ミリ以下に砕けたマイクロプラスチックの問題だけではなく、ウイルスほどに小さいナノプラスチックが、妊婦の胎盤の周囲の組織に入り込み、赤ちゃんの成長を阻害する可能性があることも示されました。

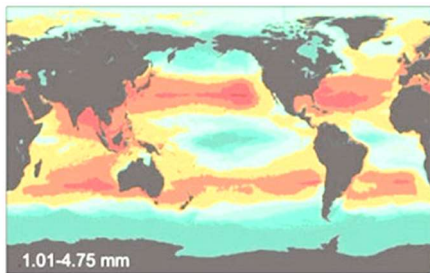
<大量消費社会の限界>

世界のプラスチックのこれまでの製造量は2015年までに83億トンになりました。1960年は200万トンでしたが、その後一気に増加し、地球上でもはや限界にきています。



日本では年間4億トンのプラスチックを生産し、そのうち半分は容器包装です。使用後は、ゴミの収集・分別によって①リサイクル②埋め立て③焼却に回ります。

ここから漏れたものは(捨てられたもの、風で飛ばされた物等)紫外線によって細片化され、マイクロプラスチックとなって河川や海を汚染し、海洋を漂っています。



海洋汚染は深刻で、ミズナギドリのお腹から体重の1割を超えるプラスチックが、クジラの腸からは80枚のレジ袋が出てくるなど、生き物や生態系に悪影響を及ぼしています。2050年にはプラスチックが魚の量を上回ると推測されているほどです。

2050年にはプラスチックが魚の量を上回ると推測されているほどです。

<プラスチックごみの行方>

我孫子市内で回収された容器包装プラスチックは、富津市の「リ・パレット」に運ばれ、出荷用の台(パレット)として再活用されています。ペットボトルは再商品化業者に買い取られ、フレークやペレットにしてメーカーへ出荷されます。汚れたプラスチックはクリーンセンターで焼却処分されています。

日本でリサイクルされているのはわずか9%で、大部分はペットボトルです。リサイクルには手間も費用もエネルギーもかかります。ポリマーの質が低下し、リサイクルはダウンしていきます。また、プラスチックの添加剤もリサイクルされ、思わぬところ(子どものおもちゃなど)から有害化学物質が検出されることになります。

埋め立てはプラスチックの添加剤が沁み出て周囲の川を汚染します。(多摩川など)

焼却すれば、添加剤の有害物質やCO2が発生します。有害物質を煙として排出しない焼却炉の建設は可能ですが、費用が莫大にかかります。(我孫子市の新焼却炉

建設費用は116億円、運営費は年間3.96億円)。プラスチックは安いと思われていますが、焼却に関わる費用を企業が商品価格に反映しているわけではなく、処理費用は税金持ちです。

<まずは製造削減>

持続可能な循環型とは、使用された素材が土の中などでゆっくりと分解し、二酸化炭素が植物などに吸収され、再び素材となっていくことです。プラスチックを焼却すれば、CO2を植物が吸収しきれずに温暖化が進み、植物から石油の生成には数百万年～数千万年かかり、実質的には循環が切れてしまいます。

解決には優先順位があります。まずは<製造削減>、次に<再使用>そして<リサイクル>最後に<焼却>です。ただし、2050年から焼却は「パリ協定」違反となります。2030年までに世界全体でプラスチックを抑制しなければ地球は危機に陥ります。すべてのプラスチックは最後にマイクロプラスチックになり、分解されずにほぼ永久的に残ります。

あと9年！私たちにできることは何でしょうか。

<私たちができること>

我孫子市消費者の会は、20年以上前からレジ袋の削減・有料化を他団体と共にチェーンストア協会に要望し続けてきました。政府はようやく、2020年7月1日から小売業を含むすべての事業者でレジ袋の有料化を義務付けました。それに対して「レジ袋はプラスチック製品のわずか1.7%にすぎず、意味がないのではないか」という声が聞かれました。しかし、レジ袋はプラスチック問題に関心を持ってもらう最初の一步です。プラスチックを削減する方向に誰もが踏み出すことが重要です。買い物に対する意識が変わることが必要です。

使い捨てプラは買わない、マイボトル・マイバッグ持参、簡易包装の物を選ぶ、リサイクルできるものは分別する、ゴミ拾いをする、食品トレーを店舗の回収ボックスに戻す等、できることを実行することです。

会員の渡辺さんは廃棄傘の布を洗濯、アイロンがけをし、エコバッグに作り変え、これまでに5000枚近く配布してきました。ごみを増やさず、新たなプラスチック製品を生み出さなかった点で大きな貢献です。

冒頭の番組最後の言葉です。「小さな変化はとるに足らないと考えがちだが、小さな一步はすぐに周りに広がる」。私たちの行動が周りの人々に影響を与えるきっかけになることを願ってそれぞれが実行しましょう！

- 1 月度役員会 1 月 14 日（木）Zoom 会議の併用
- 1、 1 月 15 日発行予定会報について
進捗状況及び、会報の印刷、配布先について報告。
 - 2、 我孫子市市民公益活動支援指針について
1 月 27 日 会員向けオンライン説明会実施
パブリックコメントの提出についての説明があった。
 - 3、 各分科会から
 - ◆市民活動支援分科会
1 月 22 日
庭の手入れなど高齢者への手助けの会
市民活動支援課、高齢者支援課、他関係団体の顔合わせ。
 - ◆こども応援団分科会
「生きづらさからの大脱出パートⅢ～支援者がつながるために」
質問の回答文について
 - ・回答文をステーションの HP に載せる。
 - ・当日の動画を YouTube で配信予定。
 - ◆地域包括支援分科会
高齢者の抱える課題を見える化する検討を始める。
 - 4、 ①市制施行 50 周年記念品について
12 月 23 日けやきホールにて記念式典
記念品と感謝状をいただく。
切手シート、市民の歌 DVD
②あびこ駅発車メロディーについて
引き続き協議を行っている。
- 2 月度役員会 2 月 25 日（木）Zoom 会議の併用
- 1、 ◆市民活動支援分科会
高齢者の手助けサミット報告
1 月 22 日
高齢者の生活を支える地域活動について関係者意見交換会の実施
参加団体 6
市役所関連部署 6 名
市民活動ネットワーク 6 名
アンケートの回答（詳細別紙）
今後について、官と民とで議論していく。
持ち回りなどで継続を検討。

- 2、 市民のチカラまつり実行委員を選出した。
 - 3、 我孫子市市民公益活動支援指針に沿って今年度は具体的な事業を立ち上げ、来年の予算に反映させていくための準備が進められる。
その一つに地域コーディネーター養成講座があがっている。
 - 4、 来年度の事業計画と推進体制について
我孫子市市民公益活動支援指針推進施策の 6 項目を踏まえ事業計画を検討する。
- 3 月度役員会 3 月 11 日（木）Zoom 会議の併用
臨時役員会 3 月 26 日
- 1、 市民活動支援課 森山さんからの説明
◆令和 4 年度実施事業：地域コーディネーター養成講座について
 - ・新しい指針の一つの柱として地域で活躍する団体を支援し地域同士をつなげることが出来る人材の育成。
 - 2、 4 月 15 日発行予定の会報について
会報 57 号予定原稿の説明と発行部数、配布箇所の検討。
 - 3、 令和 3 年度事業計画について
我孫子市市民公益活動支援指針推進施策の 6 項目を踏まえ事業計画を検討した。
事業の柱として 3 つの柱を立てる
 - ① 我孫子市市民公益活動を実りあるものにするための検討
 - ② 子ども応援団事業
 - ③ 地域生活支援サービスの更なる充実
 柱を立ててその中に、いくつかの関係する項目を具体的に掲げていく。
 - 4、 総会について
総会予定日：5 月 28 日午後 1 時 30 分から
会則の改正についての検討。
役員体制の確認。
 - 5、 委員の推薦依頼
 - ・社会福祉協議会理事に、特定非営利活動法人わごころ理事長吉田充氏を再度選出。
 - ・我孫子市福祉有償運送協議会委員に、富野浩司氏を再任。（担当幹事 渥美節子）

~~~~~☆事務局から☆~~~~~

- ◆《入 退 会》退会：宇野克朗様（個人会員）
- ◆次号は 7 月 15 日発行予定です。会報に催し、求人、他の会員への呼びかけなどの掲載を希望される場合は、事務局（メール a23se@cocoa.plala.or.jp）まで、6 月末日までにご連絡ください。
- ◆アドレスご登録の会員には、この会報や、催しのご案内などを市民活動ネットワークのホームページ <https://acnw.sakura.ne.jp/index.html> でもお届けしています。  
アドレスの新規登録をご希望の会員も上記にご連絡ください。
- ◆各団体の役員・担当者・連絡先等に変更があった場合は、その都度あびこ市民活動ステーションに Fax（04-7165-4370）でご連絡ください



# あびこ市民活動ステーションからのお知らせ

2020年度は、コロナ禍で始まり終わりましたが、Zoomを学んでZoomカフェに展開したり、市民のチカラまつりをオンラインで行うなど、事業を停滞させないために様々な試みを行いました。2021年度も、市民活動の新たな手法を探りながら進んでいきたいと思ひます。



## ■2021年度あびこ市民活動ステーション事業計画

| 事業分類        | 事業名・内容                                                                       |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------|
| ① 場・機会提供    | 施設・備品の貸し出し、利用者懇談会、利用者アンケート                                                   |
| ② 情報        | 団体情報の収集、『まち活マガジン』『まち活掲示板』の発行ホームページの構築・更新、メールマガジンの発行、facebook、キャリア教育人材バンク     |
| ③ 相談        | 日々の相談対応、出張相談、専門相談                                                            |
| ④ 交流・連携     | 市民のチカラまつりの企画・実施<br>我孫子・印西協働フォーラム（2022年度実施予定）<br>世代別カフェ：大学生カフェ、シニアのためのZoomカフェ |
| ⑤ 子ども・若者    | Abiボラ：子ども・若者にボランティア情報やプログラムを提供<br>子ども・若者が主体になって企画する事業を支援                     |
| ⑥ 子育て世代     | あびじょカフェ（講座）：子育て期の女性の学びの場<br>出張子育て交流スペース cafe ネスト<br>『おかあさん新聞』の発行             |
| ⑦ シニア世代     | プロダクティブエイジング講座（連続講座）                                                         |
| ⑧ 団体支援      | 助成金講座、あびこ市民活動ネットワークとの協働事業                                                    |
| ⑨ 多様な主体との連携 | 地域防災事業：まちづくり協議会との協働講座、防災冊子の作成等<br>外部事業への協力：あびこショッピングプラザとの共催等                 |

事業の枠組みは昨年度と同じですが、今年度は⑥子育て世代向け事業の「出張子育て交流スペース cafe ネスト」と「おかあさん新聞」の発行が始まります。また、昨年度は実施を断念した⑦シニア世代向け事業の「プロダクティブエイジング講座」を実施し、新たな市民活動の担い手を増やしたいと考えています。

## ■市民のチカラまつり 2021

4月16日～5月15日まで、参加団体を募集します。詳細は『広報あびこ 4月16日号』に掲載されます。申込用紙は、4月10日から市民活動ステーションで配布します。もしくはホームページからダウンロードしてください。 <https://abikosks.org/>

## ■最近の発行物

- ・あびこショッピングプラザが発行した『あびこ DE 子育ていいねブック Peek-a-boo』に協力しました。市民活動ステーションにて、子育て世代に配布しています。
- ・我孫子市男女共同参画室の講座に協力し、「“私らしく”のその先へ」（3回連続講座）を実施。その成果をまとめた『私のトリセツノート』が発行され市民活動ステーションでも配布しています。

